

2016年10月30日(日)朝10:10～
10月第5共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第25、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：第7の封印について、 ラッパが吹かれた

聖書:ヨハネの黙示録 8章7～9節

＜口語訳＞

新約聖書394頁

ヨハネの黙示録 8章7～9節

＜新共同訳＞

新約聖書461～462頁

ヨハネの黙示録 8章7～9節

＜新改訳第3版＞

新約聖書485頁

ヨハネの黙示8章7～9節＜塚本訳＞

新約聖書795頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことばと神の御子の愛の思いの啓示、2章～3章は、エペソ教会外7つのアジアの教会への手紙、4章は、4つの生き物と24人の長老の讚美、5章は、「天の御座の父なる神の右手の封印の巻物」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6章は、「さばきの巻物」第1～6巻開封、7章は、144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讚美を示す挿入で、8章1～6節は、第7巻開封前の静寂と聖徒の祈りを助ける御使の祈りが示されています。
- ◇ヨハネの黙示録8章7～9節は、第7巻開封と御使いのラツパと神の裁きが示されています。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第8章7～9節から主の使信に思い・心をとめます。

◆**黙示録8章7節**；ヨハネは、第7巻開封と御使いの第一ラツパとともに、血の混じった雹と火が下り、地、地の樹、青草の3分の1を焼く神の裁きが行われるのを見ました。

◇7節；塚本訳◆**第一のラツパ-雹と火**

「7 第一の御使いがラツパを吹いた。すると血の混じった火が起こって、地上に降った。そして地の三分の一が焼かれ、樹の三分の一が焼かれ、(その三分の一の地にあった)青草が悉く焼かれ(てしまった)。」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇7節；「**第一の御使いがラツパを吹いた**」時、「**血の混じった火が起こって、地上に降って**」、「**地、地の樹、地の青草の三分の一**」が、「**焼かれ(てしまった)**」のです。

⇒この神の裁きは、**厳しいもので、地上で経験したことのない自然災害**です。

⇒人間の耐えられない**大災害**が来るのです。

◆ 黙示録8章8～9節 ; ヨハネは、第7巻開封と御使いの第二ラツパとともに、火の山が海に投げ込まれ、海の三分の一が血となり、海の中の被造物が死に、舟の三分の一が破壊される神の裁きが行われるのを見ました。

◇ 8～9節 ; 塚本訳 ◆ 第二のラツパ-燃ゆる山
「8 第二の御使いがラツパを吹いた。すると火に燃えている大きな山のようなものが海の中に放り込まれた。そして海の三分の一が血になり、

◇ 8～9節 ; 塚本訳 ◆ 第三のラツパ-^{にがよもぎ}苦艾
9 生命を有つ海中の被造物の三分の一が死に、舟の三分の一が破壊された。」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇ 8～9 ; 「第二の御使いがラツパを吹いた」時、「火に燃えている大きな山のようなものが海の中に放り込まれ」、「海の三分の一が血になり」、「生命を有つ海中の被造物の三分の一が死に」、「舟の三分の一が破壊される」という神の裁きが行われています。

⇒「**第一の御使い**」と「**第二の御使い**」が**ラッパ**を吹いた時の**大災害**は、個々に具体的に何を意味するのかを解釈しようとする試みがありますが、多種多様ですので、今回は特定しないこととします。

⇒この**神の裁き**としての**大災害**が指し示しているものは、少なくとも、**神に聴き従わない人々への警告**であるということは、はっきりしています。

⇔**神の屠られた仔羊(羔羊)**に「**7つの封印の巻物**」が、手渡された時、**神の裁きの内容**であることを**ヨハネ**は自覚していました(**ヨハネ黙示録1:16**等)。

⇔**ヨハネ**は巻物の封印を解き者がいないと嘆き泣きました(**同5:3~4**)が、**神の黙示**で、巻物の中身は知らされ、その厳しい裁きのことを知っての嘆きであり、泣きでした。

⇒もう1つのことは、**神の裁き**の中にも見られる「**神の愛・いつくしみ**」で、「**三分の一**」の死や破壊から**神**が守り、死や破壊を免れさせて下さった「**三分の二**」があったということです。

⇒ここに、「**神の愛と忍耐**」があります。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことばと神の御子の愛の思いの啓示、2章～3章は、エペソ教会外7つのアジアの教会への手紙、4章は、4つの生き物と24人の長老の讚美、5章は、「天の御座の父なる神の右手の封印の巻物」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6章は、「さばきの巻物」第1～6巻開封、7章は、144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讚美を示す挿入で、8章1～6節は、第7巻開封前の静寂と聖徒の祈りを助ける御使の祈りが示されています。

- ◇ヨハネの黙示録8章7～9節は、**第7巻開封**と**御使いのラツパ**と**神の裁き**が示されています。
- ⇒**神の裁き**は、「**神に聴き従うことを拒む者**」には、回避できない出来事です。
- ⇒**神**は、「**三分の二**」の「**死と破壊**」から守って下さったものを残して、**神**に対して**悔い改め**、**神に聴き従う**ことを求める機会を与えて下さるのです。
- ⇒**神**は、「**血の混じった火が起こって、地上に降って**」、「**地、地の樹、青草を焼き**」、「**燃えている大きな山のようなものが海の中に放り込まれ**」、「**海の三分の一が血になり**」、「**生命を有つ海中の被造物の三分の一が死に**」、「**舟の三分の一が破壊される**」という**大災害**をなさいます。
- ⇒この**神**と**仔羊(羔羊)**の**大災害**は、人間の常識を超えたものですが、**神が創造されたもの**を救い出すため、**罪の身代わり**なって、**十字架の死**を選んで下さったことは、それ以上に人間の常識を超えるものでした。
- ⇒**神**が**神への不従順の罪**を赦すため**身代わり**として**神の仔羊(羔羊)**を犠牲としたのです。

- ⇒**第1巻**は、**白馬**で、「**戦争**」、**第2巻**は、**赤馬**で「**内乱・内戦**」、**第3巻**は、**黒馬**で「**飢饉**」、**第4巻**は、**青ざめた馬**で「**死**」によるさばき宣告でした。
- ⇒これらの**神の終末のさばき**は、すでに地上で起こっていることではありますが、**ヨハネの黙示録**は、「**戦争、内戦、飢饉、死**」は、**神のさばき**であるとの認識を喚起しているのです。
- ⇒**第5巻の封印開封**は、「**祭壇の下の殉教者**」を、**ヨハネ**に見せて下さる出来事であり、彼らの叫びは、「**神の復讐**」を求めるものでした。
- ⇒**ヨハネ**も、私たち、地上の教会に属する者たち、聖書を**神のことばと信じる者たち**は、「**復讐**」は、**神のなさること**と信じています。
- ⇒**第6巻の封印開封**は、**地震、黒い太陽、血の月、天の星落下**という**天変地異**でした。
- ⇒「**地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隷、自由人は(みな恐れて)**」、「**洞穴や山の岩の間に身を隠し**」、「**自己保身**」に向かったのです。
- ⇒「**第7巻の封印開封**」前の**霊的イスラエル**の戦いと「**多くの群衆**」の「**大讚美**」がありました。

⇒ヨハネ黙示録8章1～2節では「**神の御使い**」が、「**固唾を飲む**」ほどの「**静寂**」が、**神の聖徒**のために与えられ、「**神の裁きの意味**」を問い、「**神のみことば**」を**静聴**する機会が与えられました。

⇒と同時に、**神の裁きの巻物・第7巻開封内容**を予告する「**神の怒り・香壇の火投下**」も、**黙示**されました。

⇒「**神の怒り**」を鎮めるのは、「**神の仔羊**」のみと、「**神の御使いの香炉の煙**」が、示します。

⇒小さな「**神の戦闘教会の聖徒の祈り**」も、「**神の御使いの香の煙・祈り**」に支えられて、**神**に届き、「**神の仔羊の祈り**」へ結びつけられます。

⇒私たちには、「**神の怒り**」を鎮める力はありませんが、「**神の仔羊の執成しの祈り**」を求め続けることは、できるのです。

⇒「**神のさばきの巻物開封**」の前の「**静寂**」が何時まで続くか、私たちは知りませんが、この大事な「**静寂**」を、日々の罪の悔い改めと共に、「**今あるは神の恵み**」との告白をもって、日々、「**神の恵みのみことば**」に**静聴**し、共に**神礼拝・神讚美**に生かされたいと願います。

⇒「**神なき生活**」への**大災害**による**神の裁き**は、回避できないでも、「**今あるは神の恵み**」の信仰の告白での**神礼拝、神讃美、香による祈り**は、**神の栄光の御座の前**で、**24人の長老、4つの生き物、御使いたち**によってささげられていることを忘れないで、地上に生きながらえることを赦される間、**神礼拝、神讃美、香による祈り**を絶やさないで前進させていただけたいと願います。

⇒**IR師**からは、「**教会が教会を生む**」ことをめざすように、**HY師**からは、「**ともに恵みに与る者として**」、「**神が神の救いの恵みに与らせて下さった**」という**神信仰の原点・源泉**に立っている**確信**を持ち、**祈りつづけよう**との励ましを受けました。

⇒「**大災害**」は、きつく辛い経験を負荷<ふか>しますが、その背後にある「**三分の二**」を残し、「**神の恵み**」を示しつつ下さる**神の福音の事実**を覚え、「**悲しみを喜びに変えて下さる神の恵み**」を「**神礼拝、神讃美、香による祈り**」の要にして行きたいと願います。